

2021年10月18日
株式会社赤尾

新興国の再生可能エネルギーインフラファンドへの投資

～官民が連携して、新興国の気候変動問題の解決に貢献～

株式会社赤尾（代表取締役社長：赤尾 隆、以下「当社」）は、三菱UFJモルガン・スチーレー証券株式会社が募集する投資信託を通じて、ブラックロックが運用する、官民共同の新興国気候変動対策インフラファンド「Climate Finance Partnership」（以下、「本ファンド」）に対し、ESG 投資の一環であるインパクト投資として100万ドル投資しましたので、お知らせ致します。本ファンドは、アジア・アフリカ・中南米などの新興国における、太陽光・風力などの再生可能エネルギー発電施設・送配電・蓄電施設の建設・運営などを主な投資対象とします。本ファンドには、政府系金融機関であるドイツ復興金融公庫（KfW）やフランス開発庁（AFD）、に加え、国際協力銀行による出資が決定しています。新興国では、人口増加や経済成長に伴って、更なるエネルギー需要の拡大が見込まれるため、炭素排出量の削減に寄与する気候変動対策インフラの構築が必要とされています。本ファンドでは、官民共同で気候変動対策のインフラ構築資金を呼び込み、環境や社会に対するポジティブなインパクトと投資収益を追求しており、「持続可能な開発目標(SDGs)」を目的としています。

ファンド名称	Climate Finance Partnership
ファンドマネージャー	BlackRock
当社出資額	100万ドル
投資対象	アジア・アフリカ・中南米などの新興国への再生可能エネルギー発電・送配電・蓄電施設
特徴	SDGsに即した環境・社会へのインパクト評価等を実施

【想定する SDGs 項目】



以上